

会議録

会議の名称	平成28年度第1回加東市子ども・子育て会議
開催日時	平成28年8月25日(木) 午後3時から午後4時30分まで
開催場所	加東市役所501号会議室
<p>議長の氏名 (会長 名須川知子)</p> <p>出席及び欠席委員の氏名</p> <p>【出席委員】 13人</p> <p>名須川知子委員 片山弘文委員 北野美智子委員 内藤博祥委員</p> <p>木村香奈子委員 佐々木正利委員 伊村晶子委員 野瀬光委員</p> <p>赤坂和美委員 上月尚子委員 安田末子委員 神戸成企委員</p> <p>岸本知哉委員</p> <p>【欠席委員】 2人</p> <p>松本秀憲委員、山城あゆみ委員</p>	
<p>説明のため出席した者の職氏名</p> <p>無し</p>	
<p>【出席した事務局職員の氏名及びその職名】</p> <p>教育委員会 教育部長 堀内千穂</p> <p> 教育総務課 主幹 山本幸平</p> <p> 学校教育課 主幹 藤原良二</p> <p>福 祉 部 福祉部長 丸山芳泰</p> <p> 子育て支援課長 山本京子</p> <p> 同副課長 壺井初美</p> <p> 同主査 高田 篤</p> <p>【議題、会議結果、会議の経過及び資料名】</p> <p>1. 議題 (議事)</p> <p>(1) 平成27年度加東市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について</p>	

2. 会議結果

(1) について
資料に基づき審議しました。

3. 会議の経過

(事務局)

- ・開会挨拶（福祉部長）
- ・資料確認

【議事（1）平成27年度加東市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について】

《事務局から資料①、②について概要説明》

(会長)

子ども・子育て支援事業計画は、全国全ての市町村が策定を義務づけられている計画です。そして、全国全ての計画に、加東市と同じように、需要と供給の数値目標等が記載されています。

説明の中にもありましたが、全国一律のアンケート調査、算定方法から算出されており、実績と計画とかけ離れている項目もあります。それから、おおむね実績どおりという項目もあるようです。これはほかの市でも同様のようです。

さて、計画の進捗状況に関して、何か御意見はありませんでしょうか。

(委員)

私の子どもが通っている園も、今年度から認定こども園になり、我が家は1号認定で利用することになりました。料金等、すごく助かっている面もあります。

ただ、最初の年ということで、保護者の感覚からすれば、これまでの保育所のイメージのまま、1号認定にしてしまったケースがあります。

ふたをあけてみると、お盆休みに預かってもらえないなど、少し困ったこともあります。こういうところを保護者向けに説明してもらえれば、さらに利用しやすくなるのではないかと思います。

(事務局)

来年度の入所受付が11月にあるので、その際には少し説明を加えていければと考えています。

(会長)

ところで、加東市は待機児童ゼロということですが、それなりに子どもは多いほうだと思います。

近隣と比べて順調に増えているとか、そういった情報があれば教えていただけますか。

(事務局)

細かな数字を本日は持ち合わせていませんが、この計画を作成した際、北播磨の市で、子どもの数や保育の利用予測などを検討し合ったことがあります。

その際、三木市は人口が多いので、当然、子どもの数も多いのですが、加東市は小野市とほぼ横並びでした。そして、加東市よりも人口の多い西脇市や加西市よりも子どもの数は多い結果でした。ですので、人口比でいくと、子どもの数が比較的多いかなという印象です。

それから、総人口については、兵庫県内には21市19町がありますが、人口が増えている自治体が、神戸市は区ごとに分けて9つだったと記憶しています。そして、その中の一つに加東市が入っています。もちろん、北播磨で人口が増えているのは加東市だけということで、子どもの数も比較的多く、人口についても微増ではありますが増加傾向にあります。

(会長)

わずかであれ増加傾向というのは奇跡的なことなので、ありがたいと思います。私もロコモで「加東市は子どもを安心して育てられる」など、いろいろ聞いています。

それでは他に意見が無ければ、次は子育て施策に関する進捗状況について、説明を求めたいと思います。

《事務局から「平成27年度加東市子ども・子育て支援事業計画進捗状況シート」について概要説明》

(会長)

こちらについて、何かご意見はありますか。

(委員)

新1年生を見ていると、荷物も多く、不慣れな通学路で、非常に大変そうです。また、一緒に通学する高学年の負担にもなると思います。

あらかじめ保育所や幼稚園の先生と一緒に練習するなどすればどうでしょうか。また、そういった実情を教育委員会は把握されていますか。

それから、アフタースクールでは6年生まで受け入れを拡大しましたが、全員を同じように扱くと、子どもにすごく負担がかかるのではないかと思います。個々を尊重というか、個々に応じたアフタースクールというものを、もう少し考える必要があるのかなと思います。

また、知能面だけではなく、情緒面や精神面を鍛えるようなアフタースクールの運営はできないものなのでしょうか。

(事務局)

1点目、御指摘のように過剰な負担になっているというようなところがありましたら、学校や教育委員会も対応していかなければと思います。

入学前の体験ということでは、オープンスクールというのがあります。その際に、通学路を確認してみたり、学校のトイレを使ってみたりしてくださいというようなことも投げかけています。

そのような情報提供を行うとともに、過剰な負担ということにも目を向けながら、子どもたちのいい姿をどんどん引き出していける登下校ということに、今後取り組んでいければと思います。

(事務局)

2点目、アフタースクールの目標として、子どもたちが喜んで来てくれることと、安全にお預かりするというのを一番に考えています。

ご指摘のように、対象年齢が広がったことで、難しい面も出てきています。子ども達の年齢によって求められるものが違うので、それに対応していかなければいけないということは大きな課題です。

今年の2月から、アフタースクールの運営を民間委託することで、さらに良い支援がしていけるように検討しています。

(委員)

今後、小中一貫校という形で学校が統合されていきます。遠いところから通う子どもは大変でしょう。それがプラスかマイナスか分からないですが、そういう状況が必ず出てきます。

例えば、社地域でしたら、社のどこに学校候補地があるのでしょうか。

(事務局)

社地域に限らず、どこの地域もそうですが、社会教育施設が利用できる周辺ということが一つの大きなキーポイントになっています。

社地域でしたら、庁舎周辺の社会教育施設、図書館が一番大きなメリットだと考えられており、今のところ、社中学校周辺ということで検討しています。

(委員)

そうなると、さらに遠くなる子どもがいます。そのあたりも考慮の上、計画を進めていただきたいと思います。

(委員)

平成31年に公立の認定こども園ができるということは聞いていますが、周りのママ友と話をすると、途中で園が変わったり、人数が急に増えたり、そういうことに自分の子どもが対応できるのかどうかという不安を持っています。場所、人数、今ある保育所、幼稚園がどのように変わるのかということについて、現時点での最新情報を教えていただきたいのと、それを周知する手段を考えていただきたいということが一点。

次に、保育所等が、園庭開放やまちの子育て広場などを実施されていますが、必要な方に情報が伝わっているかどうかということがあります。児童館とか図書館には、社会福祉協議会が発行されている情報誌が置いてありますが、そういう施設を利用していない人は情報が入ってこない、という声を聞きます。例えば小児科に置いていただくとか、健診のときにチラシを入れていただくとかすると、保育所やこども園にも足が向くと思うので、検討いただければと思います。

それともう一点、保育料のことですが、近隣の市町は保育料を無償化するとか軽減するとかというのを新聞等で見ますが、加東市はどのように予定されているのかを教えてください。

(事務局)

まず、新設こども園ですが、平成31年4月に開園です。場所は兵庫県の教育研修所の隣、ちょうど社高校の前の空き地の一部に建設します。今年度の末から来年度にかけて設計をして、平成29年、30年と建設工事を行って開園になります。

現在、設計に関する入札等を行っています。コンペ方式という、設計業者からの提案を募るという形式ですので、建物の概要とか面積などは、選ばれたコンペの案次第ということになります。

定員は、施設の最大キャパは300人分程度を確保してもらう予定ですが、認可定員は上限ぎりぎりというわけにはいきませんので、それ以下になります。来年度や再来年度に公立こども園に通っておられる方にアンケートをとるなどして見込み人数を検討し、最初の定員を決定することとなります。

平成31年度に新しいこども園が開園した時点で、社こども園、社幼稚園、福田幼稚園は閉園になります。米田こども園、鴨川保育園に関しては、社地域の小中一貫校ができるまでは当面の間存続となっていますので、米田、鴨川に通っておられるお子さんに関しては、平成31年度の時点で新しい園に通うか、これまでどおりそこを利用されるか、選択をいただく形になります。それから、三草こども園に関しては、社会福祉法人などに運営を委託する形になり、市の直営ではなくなりますが、園としては存続します。

周知に関しては、新設こども園の青写真が今の時点ではないため、不足しているところがございます。今後、計画が固まってくれば広報かとうやチラシでの情報提供、それからこの会議や市議会など、さまざまなところに順次説明させていただきます。

(事務局)

園庭開放については、入所案内の中に、曜日・時間をご案内している程度だと思います。

(会長)

私立についてはどうなのでしょう。

(委員)

社会福祉協議会が発行している情報誌にすべて掲載してもらっています。

(事務局)

保育料の無償化の件ですが、加東市としては、基本的にどのサービスも受益者の負担は必要であろうという方向で考えています。

近隣では、加東市のみがまだ無償化にすると断言していないというような状況になっていますが、実際に無償化が本当にいいことなのかという懸念があります。三木市では無償化にしたために利用希望者が増加して、待機児童が多く出ているような問題もあります。

このほか、「幼稚園児と保育園児の保育料が違うが、どう公平性を担保するのか」や、「家で親が保育をしている子どもには全く補償がないのか」などといった課題がありますので、現時点では良い方策を検討しているというところです。

(委員)

近隣市町は色々な痛みがあるにもかかわらず、子育て世帯を応援しようという姿勢をはっきりと出している。

無償化が良いとか悪いとかではなく、子育て世帯を応援するという姿勢というのは、是非とも示していただきたいと思います。

(委員)

これは防災課の話になると思いますが、資料4 1ページの77・78番の「子どもの交通安全の確保」に関連して、先日、滝野地域で、お子さんが自動車にはねられて亡くなられたということがありました。

実は、私はその2か月ぐらい前にも、同種の事故を聞いていました。そのときは軽傷で済んだということですが、それから考えると、今回の事故の分析といいますか、再発防止策を考えていかないと、同じようなことがまた起きるのではないかなと思います。

再発防止策を十分検討いただき、何らかの手を打ってほしい。そしてその際は、やはり地域と一緒に動いていただきたい。これは私のお願いですので、回答は要りません。

(委員)

19ページの36番、「保育士・幼稚園教諭の適正配置」で、3名の教育支援員を配置したとあります。非常に大切なことだと思います。

しかし、考えてみると、公立園だけなのです。対象になっている子どもは同じ市民なので、私立園に通う子どもも同じサービスを受けられなければいけないと思います。

公立の場合は職員配置がすぐにできる。ところが、民間の場合は、市から補助金は出ていますが、そういった支援員を雇うと赤字になるというギャップがあります。同じ市民に対して、はたしてこれでいいのでしょうか。一考をお願いしたいと思います。

それからもう一点、平成31年度に新設こども園ができる中、既存園の改修工事がなされている。その理由を教えてください。

(事務局)

米田保育園については、トイレの配管つまりの改修です。小中一貫校開設まで継続して使うため、修繕しました。

福田幼稚園については、洋式トイレが1つしかなくて、朝、子どもが登園してきた時点で行列ができてしまうため、和式トイレを洋式に改修しました。

社保育園のエアコン修繕は、夏場にエアコンがとまってしまったためです。

三草保育園の門扉改修は、園の外周フェンスの小さい扉を開けて子どもが外に出てしまうことがあったので、鍵の高さを高くしました。

(委員)

社幼稚園については、幼稚園型認定こども園への移行に伴って改修工事がなされたと書いてあったように思いますが。

(事務局)

社幼稚園に関しては、この場では分かりませんので、教育総務課に確認して全員に文書で回答させていただきます。

《議事終了》

- ・事務連絡 (次回会議の開催時期・委員報酬について)
- ・閉会挨拶 (教育部長)
- ・閉会

4. 配付資料

- ・平成27年度加東市子ども・子育て支援事業計画進捗状況シート
- ・平成27年度加東市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況 (教育・保育事業) …資料①
- ・平成27年度加東市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況 (地域子ども・子育て支援事業) …資料②

平成29年5月27日

会長 名須川 知子

